

# ベランダバードウォッチ 2022 年夏の調査報告

バードリサーチ・日本野鳥の会栃木県支部

今年も早、窓の外からジョウビタキやモズたちの鳴き声が聞こえてくる季節になりました。今夏も全国的に新型コロナウイルスの感染者が増加しました。ただ、今夏に蔓延したオミクロン株は重傷になり難いとのことで、自家用車などで遠方へ野鳥観察に出かけられた方も多かったのではないかと思います。一方で、今夏は高温の夏日が多い一方で雨の降る愚図ついた日も多く、遠出を躊躇された方も多いいと思います。ベランダバードウォッチは、住宅地など身近に生息する鳥たちの生息状況をモニタリングすることを目的としています。ここ数年の新型コロナウイルス渦は、自宅付近に生息する鳥たちを見直す機会になったのではないかと思います。今回は、ハシブトガラスやスズメなど身近な鳥たちの記録状況にスポットをあてて以下に報告いたします。

## 調査状況

2022 年夏の調査は、北海道から九州までの 65 名によって家での調査 48 か所、家の周り 45 所の合計 93 か所で行われました(図 1)。調査地の地方別の内訳は、両調査とも例年通り関東地方が最も多く 27 か所(家)と 25 か所(周り)で、家での調査では近畿地方と中部地方が 7 か所と 6 か所が続きました(図 2)。家の周りの調査では、中国・四国地方が 9 件でした。なお、全体的に両調査とも徐々に新たな調査地が増えてきました。

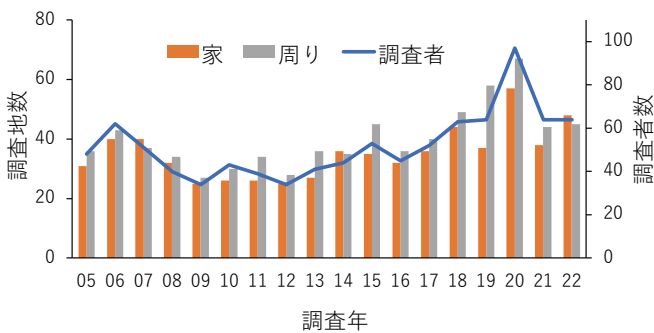


図 1. 調査地数および調査者数の推移

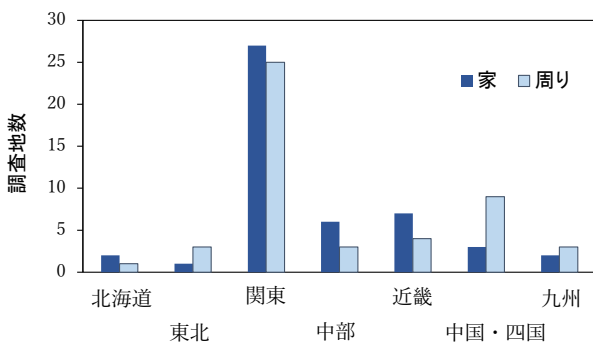


図 2. 家での調査と家の周りの調査の地方別調査地数

## 記録種および記録状況

今繁殖期(4-8月)の家での調査では合計 80 種、家の周りの調査では 109 種、両調査で合計 116 種が記録されました。これらの中には、調査期間が 4 月からのため、ツグミやシロハラ、カシラダカなどの冬鳥も含まれていました。また、今繁殖期も例年と同じように調査範囲が狭い家での調査でも、森林性の大型ツグミ類やヒタキ類、水辺のシギ・チドリ類などの多様な鳥が記録されました。同様に、家の周りの調査では水辺性の種も多く記録されており、調査地として河川や湖沼なども含まれていることが見てとれます。ベランダバードウォッチは身近な環境での調査ですが、調査を実施する際にはやはりより多くの鳥たちが生息する環境が選ばれているようです。

表 1 は、2021 年と 2022 年の夏の両調査で記録された記録率上位 15 種の比較です。それぞれの調査における種の顔ぶれは、記録率の順位こそ違うものの両年でほぼ同じでした。これは、過去の調査でも同様な傾向があり、身近な種の出現状況は、調査地が多少違ってても経年的にあまり変わらないことが分かります。これらの種は、わが国の市街地周辺に生息する代表的な鳥類と言えると思われます。ところで、記録率を両年で比べると 2022 年の方が 2021 年より若干低いことが見てとれます。特に家での調査では、スズメの記録率は 2021 年が 0.87 だったのが 2022 年では 0.78、同様にムクドリでは 0.61 だったのが 0.48 でした。調査地は両年で重複するものの一部違ってきます。とすると、今年は新たな調査地が増えたことで身近な種の記録される頻度が若干異なったのかもしれませんが。

表1. 2021年および2022年夏の調査における上位15種の記録種と記録率

No.	家2021		家2022		周り2021		周り2022	
	種名	記録率	種名	記録率	種名	記録率	種名	記録率
1	スズメ	0.87	スズメ	0.78	スズメ	0.93	スズメ	0.89
2	ヒヨドリ	0.64	ムクドリ	0.46	ヒヨドリ	0.85	ヒヨドリ	0.86
3	ムクドリ	0.61	ヒヨドリ	0.41	ハシブトガラス	0.79	ハシブトガラス	0.79
4	ハシブトガラス	0.60	キジバト	0.32	キジバト	0.77	キジバト	0.78
5	シジュウカラ	0.48	ハシブトガラス	0.32	ツバメ	0.77	ツバメ	0.71
6	キジバト	0.42	シジュウカラ	0.28	シジュウカラ	0.72	シジュウカラ	0.70
7	ツバメ	0.40	ハシボソガラス	0.26	ムクドリ	0.68	ムクドリ	0.64
8	ハシボソガラス	0.36	ツバメ	0.24	ハシボソガラス	0.64	ハシボソガラス	0.62
9	メジロ	0.33	ウグイス	0.17	ドバト	0.50	カワラヒワ	0.48
10	ウグイス	0.26	メジロ	0.17	メジロ	0.47	ドバト	0.48
11	コゲラ	0.21	ドバト	0.14	ウグイス	0.47	メジロ	0.44
12	カワラヒワ	0.21	コゲラ	0.12	カワラヒワ	0.46	ウグイス	0.40
13	ドバト	0.19	ガビチョウ	0.11	ハクセキレイ	0.43	ハクセキレイ	0.38
14	ハクセキレイ	0.17	カワラヒワ	0.10	コゲラ	0.40	オナガ	0.35
15	ヤマガラ	0.13	ヤマガラ	0.10	オナガ	0.36	カルガモ	0.30

ると2022年では0.54となり継続して減少していることがわかりました (P<0.01)。一方、ハシブトガラス (0.90) とハシボソガラス (0.98)、ムクドリ (0.92) は増減があるものの引き続き安定と解析されました。しかし、昨年まで安定と解析されたスズメは、今年の解析では0.65となり

### 家での調査から得られた結果

家での調査は5月中旬から7月下旬が調査期間です。この時期は多くの鳥たちが繁殖期にあり、繁殖個体数の経年的な変化を明らかにするうえで最適な季節です。そこで、今回も住宅地付近で繁殖する種の個体数の増減をTRIM (Statistics Netherlands) というソフトで個体数指標の変化を解析しました。調査期間は、定期的な調査地が増えてきた2008年から2022年の各年5月中旬から7月下旬までのデータを用いました。今回解析に用いた調査地は、2008年から2022年までの15年間に少なくとも8回以上調査が実施された関東地方から九州までの14か所の調査地に基づいています。

緩やかに減少と示されました (P<0.01)。さらに、日本では身近な鳥の代表的なヒヨドリも2022年では0.97と緩やかに減少と解析されました (P<0.01)。繁殖分布調査などでもスズメは減少傾向にあることが報告されていますが、ベランダバードウォッチの結果でも同様の結果が得られたわけですね。ただ、今後、さらに解析に用いる調査地が新たに追加されることで、個体数指標がどのように変化するか継続した調査が必要と思われます。

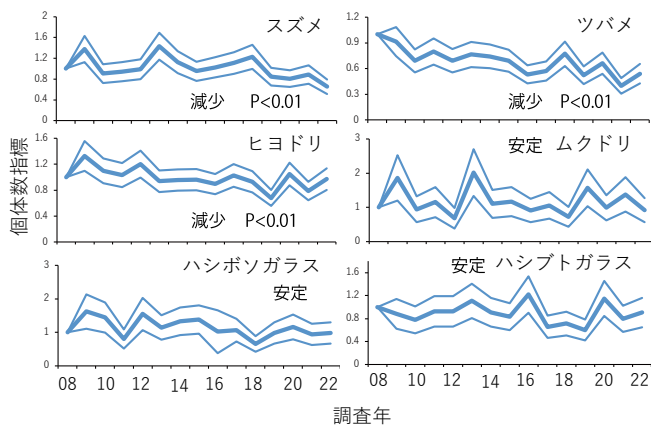


図3. 家での調査による主要な6種の個体数指標の経年変化

図3は、ツバメ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリの2008年を1とした個体数指標の変動を明示したものです。2021年などの同様の解析では、ツバメが減少傾向にあることがすでに報告されていますが、今回もツバメは2008年を1とす

### 家の周りの調査

家の周りの調査は、大まかな個体数の概数に基づいて身近な鳥たちの生息状況をモニタリングします。そのため、家での調査のように厳密な個体数に基づいた解析はできないものの、大まかな傾向は知ることができます。ここでは、身近な環境における代表的な鳥たちの記録頻度の季節変化や個体数ランクの記録率の季節変動とそれらの種の社会行動などとの関係について簡単に報告します。本報告で用いた記録は、九州から北海道までの家の周りの調査地のうち2021年と2022年の各4月から8月まで概ね調査が実施された23か所 (2021年) と25か所 (2022年) の調査地にに基づいています。調査地は両年でほぼ同じです。

まず、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリの4月から8月の10日ごとの記録率の変動をまとめてみました (図4)。これらの4種は日本各地の市街地やその周辺に生息する鳥たちです。これらの種では、4種とも記録率に多少違いがあるものの、両年で似たような記録率の季節変化をしています。

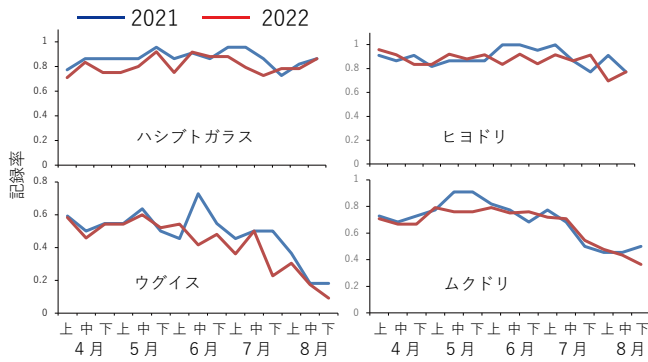


図 4. 家の周りの調査による主要な 4 種の 2021 年 2022 年繁殖期の記録率の季節変動

すなわち、ハシブトガラスは 7 月中旬から下旬に記録率がやや低下する傾向があるものの、調査期間を通して両年ともあまり著しい変動がありません。ヒヨドリは 7 月に入ると両年ともやや記録率が低下する傾向が、ウグイスは 5 月中旬を過ぎると急激に記録率の低下がみられます。同様に、ムクドリも 6 月ごろから次第に記録率が低下しています。こうした記録率の季節的な変動は、それぞれの種の繁殖時期の違いや繁殖後の群れ形成、換羽などに関係していることが推測されます。たとえば、ウグイスの急激な記録率の低下は、つがい形成後の抱卵や育雛期に嚙り活動が低下したり、一部は市街地から森へと移動することで記録率が低下したのかもしれない。ウグイスと同様に、ムクドリも 6 月ごろから次第に記録率が低下しています。本種は若鳥が巣立つと群れで行動することが多く、郊外の農地や空き地へ採食のために移動することで市街地での調査地の記録率が低下するのではないかと推測されます。

#### 個体数ランク別の記録率の季節変動

図 5 は、市街地でも普通に生息する 4 種の個体数ランクによる記録率の季節変動をまとめたものです。ハシブトガラスは、ハシボソガラスより全体的に繁殖期を通して多くの個体数が記録されています。ハシブトガラスは非繁殖の若鳥が群れで行動していたり、繁殖終了後に市街地の公園や街中に集まって群れで行動したりするためと考えられます。都市公園では 7 月から 8 月にかけてはハシブトガラスの若鳥が 40、50 羽の群れでセミなど採食する光景を観察することがあります。また、ハシボソガラスは、個体数ランクが 1-2 羽や 3-5 羽が多くを占める一方でハシブトガラスのように 21 羽以上の記録はありませんでした。これは、ハシボソガラ

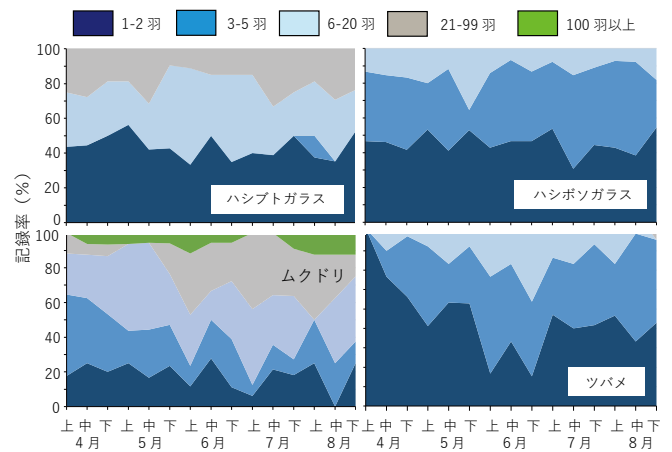


図 5. 家の周りの調査による 4 種の個体数ランクの季節変動

スではつがいや家族群で生活することが多いためと思われます。さらに、ムクドリでは巣内育雛期の 5 月中旬までは 6-20 羽までの記録が多いものの、それ以降になると 21-99 羽や 100 羽以上の記録の割合が増加しています。これは、巣立ちした若鳥も加わって行動するため群れが大きくなるためと思われます。市街地など同じような環境に生息する種であっても、生活スタイルはそれぞれの種で異なっています。時には市街地でのムクドリの集団罫やハシブトガラスのごみ集積所への集団での飛来のように人間社会との軋轢が生じるほどです。

#### 最後に

ベランダバードウォッチは、バードリサーチが設立されてから最初に取り組みされた市民参加型の調査で、今年で早くも 18 年目となります。英国などでは市民参加型の鳥の調査の結果は、専門的な調査とともに各種の保護活動などに利用されています。私たちのベランダバードウォッチも今回の夏の調査ではツバメやスズメ、ヒヨドリの減少が示唆されました。以前からツバメやスズメは日本でも減少していることが示唆されていますが、改めてベランダバードウォッチでも示されたと言えます。一方、今回の解析でヒヨドリも減少傾向にあることが得られました。これが、今夏のデータによる偶然得られた一時的な減少なのか、それとも今後も減少傾向にあるのか引き続き調査していく必要があります。この調査は、自転車を漕ぐように長い年月をかけることで貴重な情報が得られます。ぜひ今後も継続して調査に参加していただければ幸いです。末尾ながら、調

査にご参加いただいた皆様のお名前を以下に記してお  
 礼に代えさせていただきます。秋元玲子, 秋山洋佑, 浅  
 井ひろこ, 足立恵美, 渥美美保, 天沼弘勝, 飯泉仁, 五  
 十嵐勉, 石田健, 石原渉, 井山明, 入船憲一, 植田睦之,  
 梅田麻理, 及川茂, 大井智弘, 大出水幹男, 大多アキ子,  
 大塚啓子, 沖田絵麻, 加藤美奈子, 川畑紘, 黒沢令子,  
 後藤未央, 小林尹夫, 小林俊子, 坂田樹美, 笹倉千江花,  
 佐藤一博, 佐藤司, 佐藤留美子, 嶋田昌行, 島津誠一郎,  
 須田由美, 大門明美, 大門聖, 高橋佳子, 高見和志, 滝

澤三郎, 武居佳子, 武谷由紀子, 辰巳文吾, 田中勉, 田  
 中利彦, 長久保碧, 長嶋宏之, 永富直子, 西川光一, 西  
 田好恵, 丹羽和夫, 野村英樹, 菱田清和, bootsy, 藤原  
 淳子, 古川紀美子, 三田長久, 三藤文彦, 宮崎朋子, 森  
 山空, 安田耕治, 吉中康展, 吉邨隆資, 渡邊茂雄の 64  
 名の各氏。

とりまとめ：平野敏明

付表. 2022年ベランダバードウォッチ夏の調査記録種一覧

No.	家	周り	No.	家	周り	No.	家	周り
1	キジ	○ ○	41	ハイタカ	○	81	セッカ	○
2	ヒトリガモ	○	42	オオタカ	○ ○	82	ゴジュウカラ	○ ○
3	マガモ	○	43	サシバ	○ ○	83	キバシリ	○
4	カルガモ	○ ○	44	ノスリ	○ ○	84	ミンサザイ	○
5	ハシビロガモ	○	45	フクロウ	○ ○	85	ムクドリ	○ ○
6	コガモ	○	46	アオバズク	○	86	コムクドリ	○ ○
7	カイツブリ	○	47	アカショウビン	○ ○	87	トラツグミ	○
8	カンムリカイツブリ	○	48	カワセミ	○ ○	88	クロツグミ	○ ○
9	キジバト	○ ○	49	コゲラ	○ ○	89	シロハラ	○ ○
10	アオバト	○ ○	50	アカゲラ	○ ○	90	アカハラ	○ ○
11	カワウ	○ ○	51	アオゲラ	○ ○	91	ツグミ	○ ○
12	ミゾゴイ	○	52	チョウゲンボウ	○ ○	92	ジョウビタキ	○ ○
13	ゴイサギ	○	53	サンショウクイ	○ ○	93	イソヒヨドリ	○ ○
14	ササゴイ	○ ○	54	サンコウチョウ	○ ○	94	コサメビタキ	○
15	アオサギ	○ ○	55	チゴモズ	○	95	キビタキ	○ ○
16	ダイサギ	○ ○	56	モズ	○ ○	96	オオルリ	○ ○
17	ダイサギ	○ ○	57	カケス	○ ○	97	スズメ	○ ○
18	チュウサギ	○ ○	58	オナガ	○ ○	98	キセキレイ	○ ○
19	コサギ	○ ○	59	カササギ	○ ○	99	ハクセキレイ	○ ○
20	ヒクイナ	○	60	ハシボソガラス	○ ○	100	セグロセキレイ	○ ○
21	オオバン	○	61	ハシブトガラス	○ ○	101	ビンズイ	○
22	ホトギス	○ ○	62	ハシブトガラ	○ ○	102	アトリ	○
23	セグロカッコウ	○	63	コガラ	○ ○	103	カワラヒワ	○ ○
24	ツツドリ	○	64	ヤマガラ	○ ○	104	マヒワ	○
25	カッコウ	○ ○	65	ヒガラ	○ ○	105	ベニマシコ	○
26	ヨタカ	○	66	シジュウカラ	○ ○	106	ウソ	○ ○
27	アマツバメ	○ ○	67	ヒバリ	○ ○	107	シメ	○ ○
28	ケリ	○ ○	68	ツバメ	○ ○	108	イカル	○ ○
29	ムナグロ	○	69	コシアカツバメ	○ ○	109	ホオジロ	○ ○
30	イカルチドリ	○	70	イワツバメ	○ ○	110	ホオアカ	○
31	コチドリ	○ ○	71	ヒヨドリ	○ ○	111	カシラダカ	○
32	ヤマシギ	○	72	ウグイス	○ ○	112	アオジ	○ ○
33	タシギ	○	73	ヤブサメ	○	113	コジュケイ	○ ○
34	クサシギ	○	74	エナガ	○ ○	114	ドバト	○ ○
35	キアシシギ	○	75	オオムシクイ	○ ○	115	ホンセイインコ	○ ○
36	イソシギ	○	76	メボソムシクイ	○ ○	116	ガビチョウ	○ ○
37	オジロトウネン	○	77	エゾムシクイ	○ ○	117	カオジロガビチョウ	○
38	ミサゴ	○ ○	78	センダイムシクイ	○ ○	合計	80	110
39	トビ	○ ○	79	メジロ	○ ○			
40	ツミ	○ ○	80	オオヨシキリ	○ ○			